

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その4-①

今月は、「本校の取組の成果・課題の積極的な発信」について紹介いたします。

7月3日（金）に、公開研究会として下記のように全学年・全学級が授業を公開しました。檜山・渡島管内をはじめ、積丹町と喜茂別町の参加者もあり、93名が公開研究会に参加しました。

学 年	教科	単元名・教材名	授業者	分科会
第1学年	算数	5 のこりはいくつ ちがいはいくつ 「ちがいはいくつ」	佐藤 亮樹 大山 里和	1
第2学年	国語	5 くりかえしのあるお話をつくろう 「きつねのおきゃくさま」	山根 里美 河野 美子	2
第3学年	国語	6 言葉の使い方を考えよう 「気持ちを伝える話し方・聞き方」	新岡 里香	3
第4学年	算数	4 四角形を調べよう（習熟度別学習） 「いろいろな四角形」	福山 央 押見 清一	4
第4学年 （ひまわり）	国語	7 物語の世界を想像して、音読したり、演じたりしよう 「そろそろ」	山谷美津代	5
第5学年	算数	5 小数のわり算を考えよう 「小数の倍とわり算」	永井 朋子 山本 雅樹	6
第5学年 （わかば）	国語	3 物語のおもしろいところを紹介しよう 「モチモチの木」	米谷 淳	7
第6学年	国語	7 自分のものの見方や考え方を深めよう 「随筆を書こう」	鈴木 尚子	8

本校として今年度は、国語科と算数科において「教えて考えさせる」授業づくりを取り組んできました。当日は、その授業の様子や子どもたちの様子を見ていただきました。

参加者からのアンケート

- 子どもたちが生き生きと活動していました。
- 指示がていねいでわかりやすい授業でした。
- 日常の学級経営のよさが伝わる良い雰囲気でした。

などの感想をいただきました。



国語科の授業についてのアンケートより

- 「付けたい力の設定」については96%の肯定的な意見
- 「互いの考えを聞きあい深め合う授業」については93%の肯定的な意見
- 「教師と児童、児童と児童の信頼関係の醸成」については100%の肯定的な意見

など授業を参観された方々から肯定的な意見を多数いただきました。

算数科の授業についてのアンケートより

- 「達成感や意欲の高まり」については94%の肯定的な意見
- 「子どもの考えを引き出しながら進める」については82%の肯定的な意見
- 「教師と児童、児童と児童の信頼関係の醸成」については97%の肯定的な意見

など授業を参観された方々から肯定的な意見を多数いただきました。

さらに、ノート指導・板書・発問・話し方・学習規律（学習スタンダード7）の徹底についても96%の肯定的な意見をいただきました。「たば風南小のチャレンジ」として取り組んできた成果としては、参観された多くの方々に肯定的に受け入れられたようです。

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その4-②

授業終了後は、公開した授業の教室で話し合いがもたれました。少人数グループに分かれて話し合う中、活発な意見交流がなされていました。授業を構想する時に使う指導案の拡大したものを使うことで、授業についての振り返りや話し合いが深まったようです。

授業についての話し合いが終了し、ホールに会場を移し、「学校力向上の取組及び成果・課題」について、主幹教諭の山本教諭が、「南小の研究の概要」について、研究部長の鈴木教諭が、それぞれスライドを使いながら説明しました

学校力向上指定事業についてのアンケートより

○「学校としての一体感を感じられる取り組み」について98%の肯定的な意見

○「目標やゴールの明確さ、明日からの教育実践に役立つもの」について100%の肯定的な意見

など本校の取組について、肯定的な意見を多数いただきました。

学校力向上に関する取組、校内研究に関する取組の説明終了後、参加者の方々からの質問もありました。

●若手の指導力向上や組織力アップに向け、どのような取組をしているのか。

→主幹教諭の配置とミドルリーダーとの連携による職員との積極的な関わりを大切にすること。

●子どもと向き合う時間を確保するために、どのような取組をしているか。

→職員朝会の廃止、指導サポートチームの組織化（アンケート集計やテストの採点他）、朝学習の時間から教室に入ることなど

●「教えて考えさせる授業」の前半部分をコンパクトにするポイントは何か。

→めあてからまとめまでの流れで、情報量を精選することなどと参観者の方からの質問に答えていきました。



全体会のまとめとして

檜山教育局義務教育指導班 指導主事 丸山 敏儀 様より

○今日のポイントはこれ！と教え、共通認識させることで、活動が具体化する。

○何を身に付けさせたいかをはっきりさせることが大切。

○五つの言語意識として、相手・目的・場面状況・方法・評価をどうもたせるか。

檜山教育局義務教育指導班主査 竹内 結美 様より

○「教える段階」で、この時間で何をやればいいのかをはっきりさせている。

○「めあて」に正対した「まとめ」が授業の後半ではなく前半にあることのよさ。

○「考えさせる段階」では、発展問題のパターンを増やすことが大切。

また、学校力向上の取組については、「南が丘小学校の実践発表は、7月という早い時期に実施してくれている。今年度の各学校の教育活動に取り入れ、参考にできる部分を実践してほしい。」とまとめていただきました。



公開研究会を通して、子どもたちが「自分でできる、分かる」ことが増え、「考えが深まる」ような日常実践を大切にし、自信を持って学習に取り組む態度を身に付けさせたいと改めて思いました。